

委員名簿

委員	吹田商工会議所 会頭	夜久 亢 宥
委員	吹田市医師会 会長	小 谷 泰
委員	摂津市商工会 会長	和 泉 慎 次
委員	摂津市医師会 会長	下 野 英 世
委員	関西電力 支配人	中 村 實 夫
委員	大阪ガス近畿圏部 部長	吉 岡 亨
委員	NTT 西日本第 1 ソリューション営業部 部長	山 口 泰 範
委員	JR 西日本総合企画本部 部長	荻 野 浩 平
委員	阪急電鉄 常務取締役	島 田 隆 史
委員	毎日放送 常務取締役	上 田 修
委員	国土交通省近畿地方整備局建政部 部長	坂 真 哉
委員	大阪府住宅まちづくり部 理事	井 上 章
委員	吹田市助役	富 田 雄 二
委員	摂津市助役	小 野 吉 孝
アドバイザー	大阪大学大学院医学系研究科 教授	武 田 裕
アドバイザー	関西大学工学部 教授	楠 見 晴 重
オブザーバー	都市再生機構西日本支社 副支社長	桑 原 憲 雄
オブザーバー	鉄道建設・運輸施設整備支援機構 国鉄清算事業本部西日本支社 次長	高 木 良 範
オブザーバー	日本貨物鉄道関西支社 副支社長	萩 原 正 之

阪口会長

- ・当地区は、東海道線という国土軸に沿い、今後南北軸の整備も期待される交通至便のロケーションにあり、北大阪全体の発展を牽引するポテンシャルを有していると考えている。
- ・かつて吹田市は、「東洋一の操車場のあるまち」と呼ばれた時代があった。今度は、その跡地を新たな市のシンボルとして再生したいと考えている。
- ・「あそこにいけば、身も心も健康になる施設が整っている」というような市民意見に答えると共に、広域からも多くの人を訪れる街にしたい。
- ・高度な研究機能が集積するとともに、縄文の森や里山、桜並木などに囲まれた、「森の中の高機能空間」づくりという都市イメージを持っている。
- ・将来、万博公園と並ぶ北大阪地域の環境シンボルとなり、地域経済、地域文化、地域福祉の共存調和する、21世紀のまちづくりモデルとなることを目指したい。
- ・当地区の近隣には大阪大学、関西大学をはじめ、国内外においても有数の文化・学術研究機関が集積している。これらのポテンシャルを最大限に活かし、まちに新たな活力と賑わいを生み出すような計画を立てることが、最も有効的な活用方法と考えている。

森山副会長

- ・当地区は北大阪で最後に残された広大なまちづくり用地であり、摂津吹田両市一体となったまちづくりを行うことにより、北大阪を牽引する存在にもなりえるものと考えている。
- ・地区周辺には緑も乏しいことから、まず、緑を中心とした環境づくりを考えたい。その象徴として、吹田操車場跡地を貫く緑の遊歩道と連携した公園を設け、スポーツ・レクリエーション的な活動だけでなく、周辺地域からの避難地としても活用できるものとしたい。
- ・当地区の核機能として、教育や医療といった施設を考えていることから、その核施設を含めて相互利用が図られる形態が最も有効的と考える。
- ・下水処理場の課題については、跡地利用の推進を図る上で重要な課題であり、当地区との相乗効果を期待できる地区でもある。双方を含めたまちづくりの検討を進めたい。

荻原副会長

- ・少子高齢化が進む中で、吹田操車場のまちづくりは次の100年、次やその次の世代に対しても、よかったと思われるまちづくりが必要である。
- ・地区の中に公園をつくるという話があるが、「北摂パークタウン」として、敷地全体で公園とし、その中に施設があるというような考え方で全体構成を図れないか。
- ・当地区のコンセプトを有効に機能させるために必要なものは環境である。他の地区の開発でも同様の開発が行われており、差別化を図るためにも環境は重要である。

江川委員

- ・20世紀型のまちづくりから、次の100年を見据えた空間デザインや環境のあり方について求められている。当地区の全体像を、環境に配慮した視点で見直していく必要がある。
- ・全体像を検討するためには、貨物駅を含めた都市デザインの検討を行うことが必要である。

向井委員（栗山代理）

- ・医療健康、教育、環境といった、まちづくりのコンセプトについては、近年における他の都市開発においても実施されているテーマであり、導入機能に関する競合状況も激化していることから、導入機能に関するマーケティング調査などを行うとともに、しっかりとしたリーディングプロジェクトづくりを行うことが必要である。

篠崎委員

- ・委員会の会場である万博公園が作られた時代と吹田操車場跡地のまちづくりを行う現在との状況は異なっている。万博の頃はエネルギー成長時代のまちづくりであったが、当地区の場合は少子高齢化・成熟化社会における環境重視型のまちづくりが求められている。
- ・当地区は大阪駅北地区との関わりが強いが、距離的に近接しており、両者のまちづくりが共鳴しあい、双方の魅力により、関西への来街を促すまちづくりになることを期待している。
- ・金沢における21世紀美術館での成功事例のように、ハード整備にとどまらず、ソフト計画についても綿密に計画されたものでないとまちづくりは成功しない。
- ・まちづくりを行う過程の中で時間をかけて検討を行い、魅力的な施設を作り上げることにより、周辺にも波及効果を及ぼす「Step by step」のまちづくりを展開していくべきである。

布村委員

- ・現在の案の中には、広域的な集客を目指す考え方も示されていることから、導入機能の検討を図る上では、ローカルニーズと広域的なニーズの整理及びデザインが重要である。
- ・どこでもあるような施設でなく、公園についても、どんと森ができるとか、半端ではない、思い切った計画にしてほしい。
- ・地域資源と当地区の関わりを調べるべきである。たとえば、大阪大学の立地や万博公園と当地区の関係性があるのかわからないのか、大阪・関西圏における当地区の役割がどんなものか、というようなことが挙げられる。

梶本委員

- ・吹田操車場跡地のまちづくりについては、この地域における重要課題であると認識している。大阪府としても、北大阪に残された貴重な空間であり、新しい都市拠点となるポテンシャルを有していることから、両市と連携して魅力のある街になるよう協力していきたい。
- ・現在、吹田・摂津両市及び関係機関を含めて、事業内容や事業手法、事業主体など、事業の具体化に向けた検討を行っているところであり、解決すべき課題もいろいろあると思うが、できるだけ洗練された良い計画になるよう努力していきたい。

高橋委員

当日ご欠席でしたが、後日ご意見をいただきました。

- ・まちづくりは「100年の計」という長期的展望を基本理念としなければならない。そう考えると、「緑」「医療健康」「教育文化」などのゾーン企画の根底に今後の日本人の根元的変化の予測が必要と考える。たとえば、「緑」をレクリエーションや福祉の施設やレストランなどの演出とする従来の手法からもっと深く踏み込んで、都市生活に環境哲学が不可分であるという発想の転換に基づくことが必要ではないだろうか。自然との共生が日常的になる仕組みにより都市生活者の蘇生が担保されると考える。以下医療・教育・文化も同様であり、将来文明の抜本的变化を視野に入れて人間生活の進歩と調和を誘導する理念を設定してもよいのではないか。
- ・マーケットリサーチが必要であることはいまでもないが、それは従来、往々にして短期的な経済採算手法を重視しがちで、現代社会の変化スピードが想定できず、結果的に企画を成功裡に導かないことも多かった。リサーチの基礎に長期的視点と微調整の余地を挿入する必要があるだろう。
- ・近未来に官民財のボーダレスや競合の兆しがあり、日本経済に大きな影響を与えることとなる。その意味でプロジェクトの運営システムに於いて、官民財の領域に捉われない革新的手法への挑戦は行政課題と考える。今回のまちづくりはそれへの試金石にして欲しい。
- ・グローバル文化と地域文化の適切な融合が近代のまちづくりの不可欠基点である。現状の北摂文化という地力を核に、遠隔地域の人々を引き付ける未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす拠点となるべきである。

今、両市が考えております吹田操車場跡地でのまちづくりについての構想が、パワーポイントを使って概要が紹介されました。

ここで少し、市長と致しまして、このまちづくりについてどのような想いを持っているのか、という点につきまして、簡単にご紹介させて頂き、その後、御参加の皆様方からご意見を伺って参りたいと思います。

私は森山市長さんから、とお願ひしたのですが、森山市長さんから吹田市さんから、ということでしたので、僭越ございますけれども私の方から先に述べさせていただきます。

吹田市と摂津市両市にまたがる本まちづくりは、用地は約23ha、本市におきましては14.4haの面積がございます。この用地は、東海道線という国土軸に沿いまして、今後、南北軸の整備も期待されます交通至便のロケーションにございまして、北大阪全体の発展を牽引するポテンシャルを有していると考えております。

かつて本市は、「東洋一の操車場のあるまち」と呼ばれた時代がございました。今度は、その土地を新たな市のシンボルとして再生する、という構想を持っております。

市全域が市街化されました本市にとりまして、ここは一から新たなまちづくりに取り組める、最後のまとまった用地かと、用地として、非常に貴重なものでございます。それ故、昭和59年、1984年に吹田操車場の機能が廃止されて以来、22年にも及びます市民の想いが、幾重にも積み重なっている、我々にとっては特段に想いの詰まった再開発用地、都市整備用地であるということ、まずは申し上げたいと思っている次第であります。

ここに至るまでの、言い尽くしえませんが先人のご苦勞や、このまちづくりに大きな期待を持っていただいている市民の想い、このような熱い想いを自らの想いと致しまして、私共はこれまで、この課題の解決に取り組んで参りました。今、その道のりを思い返しますと、私はこの用地が本当にかげがえのないものと再認識致すところでございます。

この地域の近隣には大阪大学、関西大学をはじめ、国内外におきましても有数の文化・学術研究機関が集積致しております。私はこれらのポテンシャルを最大限に活かしますためには、まちに新たな活力と賑わいを生み出す、素晴らしい計画を立て、それを実現致します以外、このような歴史と想いがつまったこの用地を、最も有効に役立てる方法はないものと確信をしております。

市民の皆様はもちろん、あちらこちらから、「あそこに行けば、リフレッシュされる」、「身も心も健康になれる施設が揃っている」、「元気になれる」、また「病気が予防できる」といった声が寄せられ、全国から多くの方々を訪れる、そんなまちにしたいと思っております。

そこに、高度な機能が集積する高機能都市が創出されるのみ、というような姿は想像しておりません。私は地域全体として、高い機能をもちながら、縄文の森や里山、あるいは桜並木などに囲まれた、いわば「森の中の高機能空間」というようなイメージを持っております。ここは将来、万博公園と並ぶ市南部の環境シンボルとなり、地域経済、地域文化、地域福祉の共存調和致します、21世紀のまちづくりモデルとなることを願っております。

本日、このようにお集まりいただきました委員の皆様方でございますが、高い専門性と広い視点や立場をお持ちの方々にお集まりいただきまして、まちづくりに対するご助言を頂きますことは、私共にとり望外の幸せでございまして、心から感謝を申し上げます次第でございます。

最後になりますが、委員をお願いいたしました皆様方におかれましては、産学官、それぞれのお立場で私共のこのような想いを受け止めていただき、将来のまちのあり方を見誤ることなく、周辺地域の価値が向上いたしますようなまちづくり計画が策定され、後世に残る素晴らしいまちの創造に向けまして、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

以上、私の想いと皆様へのお願いをお伝えさせて頂きたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

摂津市長の思い

それでは、これまでの摂津市の取り組み、これからの想いをお話させていただきますので、よろしくお願い致します。

先ほどからお話が出ておりますけれども、本市に占める割合は約8.6haです。摂津市というのは、非常に小さな街ですから、8.6haというのは非常な大きな部分を占めます。そして、地形的に見まして、JR東海道線の国土軸、私どもの街からいいますと、非常に大きな影響を及ぼす地域でございます。

冒頭にもお話ししたしましたが、この跡地というのは、北大阪で最後に残された空地でございますから、摂津市にとりましても大事な部分でありますけれども、摂津市だけのことと考えてはいけないう、両方の街をうまく考えることによって、吹田操車場跡地の発展に繋がっていくと考えております。

ただ、私ども、今現在、南千里丘開発というのをやっております、これは阪急電車の京都線に新しく摂津市という駅を造ります。その前に、福祉、教育、医療も含めてですね、一つのまちづくりを取り組んでおるところでございます、そういうことからいいますと、今回の吹田操車場の跡地のまちづくりと、これとのやっぱり財政的とか施設の配置、これは摂津市としては見極めていかないかん、という現状がございます。

先ほど冒頭にもお話ししたけれども、摂津市には山も谷もないんですね。どちらかという準工地帯でございます。ということからいいますと、今日まで考えてきたのは、この吹田操車場の跡地に、緑と環境と文化、こういう風なものを視野に入れていきたいということは事実でございます。阪口市長さんからお話になられましたけれども、吹田操車場跡地を貫く約3kmもの遊歩道、これと連携した、公園というんですかね、スポーツ・レクリエーション的な活動だけではなく、防災にも役立つと申しますか、そういったものを考えてきました。

ただ、これも先ほどお話をございましたけれども、この吹田操車場跡地一帯を見ると、この核になるのは、吹田の岸辺駅だと思います。

その核に教育、医療、といった施設が、吹田の方でお考えになっておることからありますから、私共の市が、その核となる施設を利用する、またはその逆といった相互利用が図られる形態が、最も有効な利用方法だと考えます。

このまちづくりに一つの避けて通ることのできない、大きな課題があります。それは下水処理場でございます。この吹田操車場跡地を生かすも生かさないも、この処理場にかかっていると私は思っております。これは吹田も摂津も全く同じだと思っております。この処理場はいままで大きな役割を果たしてきた訳ですけれども、

今回、吹田操車場跡地のまちづくりが行われるにあたり、吹田市さんの意向も確認させて頂いた上で、この処理場のあり方や土地利用について、跡地利用と一体の議論をするということになりました。

摂津に取りましても大切な課題でございますから、これはなかなか非常に難しい問題ですけれども、委員の皆さんの、一つ知恵をお借りしたいと思っております。

今日まで、阪口市長も私も、市民とのコンセンサスづくりに非常に苦勞をしてきました。長い間のいきさつがあります。それだけにこの跡地のまちはきちっと作らないと、市民に説明がつかない訳であります。そういうことで1+1、吹田と摂津が3にならないためなんです。で、ここにおられる委員の皆さんに、そういう面をしっかりとご確認を頂いて、一つご指導いただきますようお願いいたします。ありがとうございました。